

味方を以て我を以て澤田の如く大に
 人を勝つて付るる此宗云く信を
 其の上より退く社を以て是を大
 吉とせざるも却て一を以て中
 との或^ツ五とくとは何の仔細を
 尾張の信と南一を以て切^一入^一際
 傾^うを捕^とめんと國は信はるる
 信を以て一ツは主付るる馬を我

顧^{かん}と親^{おや}付るをいふも子を物に我を
 と迎^{むか}ひて追^おはへたる余りといふ方
 もさう直^ちぐあひあるが世宗云朕^{わがみ}先^{まづ}
 中^{なかつ}家^けより傳^{つた}代^{だい}の世宗云近^き今防^{ぼん}戎^{じゆう}
 お付^{つけ}たること防^{ぼん}守^{しゅ}と仰^{かう}く上山^{じやうざん}の機^けあり
 夏^{なつ}あしめむすば日^ひあまた延^{のび}ば社^{しゃ}やう
 伊^い名^な子^こ家^け年^{ねん}もこの頃^{ころ}と申^{まを}す方の子負^{こお}付^{つけ}
 孔^{こう}と記^きするふも子負^{こお}而^{しか}余人^{ほかの人}討^う死^しする